



Jアラート 対応マニュアル

危機管理委員会

今般、北朝鮮によるミサイルの発射や核実験の可能性など、朝鮮半島における緊張感が高まっています。福岡市でも、12月1日にミサイル対応訓練が行われました。

純真学園大学に於いても、学生・教職員の安全を考え、以下の対応の周知を図ります。ミサイル飛来時の対応は、次の点に注意を払ってください。いずれの場合も、目を閉じ、耳をふさぎ、口を開け伏せることが大事です。

- 1) 出来れば地下道やビルの地下に逃げる
- 2) 家、マンションの場合は窓のカーテンを閉め、窓から離れ、トイレ、風呂場等ガラスの無い場所に避難し頭を守り、ガラスが見えない場所で伏せる
- 3) 間に合わない場合は、地面に伏せるか、側溝やコンクリートなどの頑丈なもの陰に隠れて伏せる。
- 4) いずれの場合も目を閉じ、耳を塞いで口をあける

政府 内閣官房 国民保護ポータルサイト

<http://www.kokuminhogo.go.jp/kokuminaction/>

携帯サイト

<http://www.kokuminhogo.go.jp/mobile/index.html>



通常の爆弾の場合は、直撃以外は爆風とそれにより飛散するガラス、石、金属片などによって致命傷を負います。また、これらから身を守れたとしても、高い圧力の差が外と体内で生じ鼓膜を破ってしまうこととなります。これらに気をつけるためには、頑丈な建物の中でガラスが見えない場所、そして頭を守り、目を閉じ、耳をふさぎ、口を開けていることです。

もし、万が一核ミサイルが飛来した場合は、同様に地下に避難することです。出来なければ、ミサイル同様、側溝やビルや鉄やコンクリートなどの陰で伏せて、目を閉じることです。絶対に閃光を見てはいけません、失明します。

木造の家などのコンクリートや鉄以外に隠れることは当てになりません。閃光時の放射線や死の灰などから身を守るために。鉄板やコンクリートの中（放射線被爆を出来るだけ少なくするため。地下に避難している場合はそのまま。）で死の灰が降り止むまでの1時間以上数時間はそのまま、その後は、なるべく外に出ない方法で地下鉄まで行き、地下道を利用して避難する。